

<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

省エネ設備を分割払いで導入し、電気代大幅削減で省エネ対策

(株式会社井尾製作所)

取材日：2025.5.1

Q 取り組みの背景・きっかけ

A

- ・ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格の高騰や急激な円安の影響により、電力費が急速に上がり、それまでの企業努力では対応できないほど負担増となった。
- ・出ていくお金を抑えたい一心で関西電力から新電力に変えたものの、効果があったのは最初だけで、電力調達コスト上昇に伴って新電力費は前年の3倍、費用は200万円増となった。
- ・環境対策はお客さんに「選んでもらう」ための取り組み。環境に無関心では、商取引においても若い人を採用したいと考えたときにも不利になる。KES STEP1 登録を継続し、自社が環境へ取り組む姿勢を内外に示すことを大切にしている。

Q

取り組みを進める上で工夫したこと・苦労したこと・利用した施策

A

環境改善目標	具体的施策
1 省エネルギー 電力消費量の削減 2022年度比 現状維持 (電力消費量)	1.1 エアコンに頼らない服装の推進 1.2 空調機のWBGT値による運用の徹底 1.3 使用しない機械の電源OFF(品質優先) 1.4 冷暖房温度:冷房:28℃,暖房:20℃*1 1.5 局所・冷暖房・電灯等離席時OFF 1.6 設備改善(手元SW増設・省エネ設備の導入・LED化の計画等)
2 省資源化 産業廃棄物の削減 2022年度比 現状維持 (リットル)	2.1 最適(必要最小限・再利用)梱包の実施 2.2 他製品への変更の検討 2.3 リサイクル化への検討 2.4 使用頻度の適正化 2.5 分別の徹底
3 作業の効率化 生産性の向上 2021年度比 3%UP(指数) (万円)	3.1 納期遵守 3.2 加工時間の短縮 3.3 生産会議の開催 3.4 改善提案の推進 3.5 購入品の納期管理の推進 3.6 生産システムの運用

- ・専門家の省エネ・節電・EMS 診断を受け、改善案として LED 照明への変更等を提案されたものの、いずれも初期投資額の負担が大きく立替払いが必要だったため、銀行や取引先へ相談し、分割払いで設備導入が可能な業者を紹介してもらった。

- ・KES・STEP 1 の行動目標は、社長の一存ではなく環境管理の責任者が中心となって社員と一緒に考えている。目標は社内に掲示し、省エネや廃棄物の削減等の活動は社員も業務の一環と思って協力してくれている気がする。

Q

取り組みの内容・成果とメリット

A

- ・デマンド監視装置(日本テクノ(株))の更新をきっかけに電力コンサルティングを受け、電気料金単価を市場連動型に変更した結果、電気代約 25% コストダウンに成功。次のステップとして更に電気代を下げるため、メインバンク(京都銀行)へ相談、ネクシーズ ZERO(設備導入支援サービス)を紹介され、5年の分割払いでより消費電力の低い LED 照明へ変更することで、消費電力量の3割削減を実現した。
- ・日新電機(株)と協同組合日新電機協力が取り組む「スマート活動推進協議会」において、設備の稼働状態を把握できる電力ロガーとエア漏れ箇所を検出できる超音波カメラを活用した省エネ診断について提案があり、参加している。今後は、計測データをもとに設備の運用・更新を検討し、更なるエネルギー消費量削減とコストカットを目指す。



(超音波カメラを用いてエア漏れ箇所(中央赤色部分)を検出)

株式会社井尾製作所(代表取締役社長 井尾 賢司)(協同組合日新電機協力量 組合員)

京都市右京区、従業員:35人

事業内容:油圧機器部品(バルブ、モータ、ポンプ等)、半導体機器、重電機器、織機周辺機器等産業機械設備の金属部品の切削加工および一部組立

(https://www.nissin.or.jp/member-company/2423/ または http://www.io-ss.co.jp/)